

国土数值情報（行政区域）

製品仕様書

第 2.4 版

---

令和 2 年 3 月

国土交通省国土政策局

---

【改訂履歴】

版	更新日	改訂内容
第 1.0 版	2007 年 5 月	初版（地理情報標準プロファイル（JPGIS） ver.1.0 準拠）
第 2.0 版	2010 年 3 月	地理情報標準プロファイル（JPGIS）のバージョンアップに伴う改訂（符号化仕様は GML 準拠）
第 2.1 版	2012 年 3 月	GML 形式への変換作業に伴い，一部見直しを実施（符号化仕様は GML 準拠）
第 2.2 版	2014 年 3 月	支庁名を支庁・振興局名に変更
第 2.3 版	2016 年 3 月	座標系を JGD2011/(B,L)に変更

# 目次

1 概覧.....	1
1.1 空間データ製品仕様書の作成情報.....	1
1.2 目的.....	1
1.3 適用範囲.....	1
1.4 引用規格.....	2
1.5 用語と定義.....	2
1.6 略語.....	2
1.7 参考資料.....	2
2 適用範囲.....	3
2.1 適用範囲識別.....	3
2.2 階層レベル.....	3
3 データ製品識別.....	3
3.1 製品仕様識別.....	3
4 データ内容および構造.....	4
4.1 応用スキーマクラス図および応用スキーマ文書.....	4
4.1.1 国土数値情報応用スキーマパッケージ.....	4
4.1.2 国土骨格パッケージ.....	5
4.1.3 行政区域パッケージ.....	6
4.1.4 共通パッケージ.....	9
4.2 空間スキーマプロファイル.....	9
4.3 時間スキーマプロファイル.....	9
5 参照系.....	9
5.1 座標参照系.....	9
5.2 時間参照系.....	9
6 データ品質.....	10
7 データ製品配布.....	14
7.1 配布書式情報.....	14
7.2 配布媒体情報.....	14
8 メタデータ.....	15
付属資料-1 符号化仕様作成のためのタグ一覧.....	1
付属資料-2 符号化仕様.....	2

## 1 概覧

### 1.1 空間データ製品仕様書の作成情報

本製品仕様書の作成に関する情報は以下のとおりとする。

- 空間データ製品仕様書の題名：  
国土数値情報（行政区域）製品仕様書 第 2.4 版
- 日付：2020 年 3 月 27 日
- 作成者：国土交通省 国土政策局 国土情報課
- 言語：日本語
- 分野：境界
- 文書書式：PDF

### 1.2 目的

国土数値情報は、国土形成計画、国土利用計画などの国土計画の策定や実施の支援のために作られたものであるが、各分野で広く利用されることも想定している。

本データは、全国の行政界について、都道府県名、支庁名、郡・政令都市名、市区町村名、行政コードを整備したものである。

本データ作成における原典資料等を以下に示す。

原典資料

- ・「数値地図（国土基本情報）」行政区画 ※整備年度 1 月 1 日時点
- ・「国土数値情報（行政区画）」 ※過去データ

### 1.3 適用範囲

本製品仕様書が適用されるデータの適用範囲は以下のとおりである。

- 空間範囲  
日本全国
- 時間範囲  
1920 年度から本製品仕様書に基づき作成されるデータの作成年度まで

## 1.4 引用規格

本製品仕様書は以下の規格から引用する。

- 地理情報標準プロファイル (JPGIS) 第 2.1 版 平成 21 年 5 月

## 1.5 用語と定義

本製品仕様書で使用される専門用語とその定義は、以下の資料に従う。

- 地理情報標準プロファイル (JPGIS) 第 2.1 版「附属書 5 (規定) 定義」
- 国土交通省国土計画局 GIS ホームページ ガイダンス  
URL : [http : //www.mlit.go.jp/kokudokeikaku/gis/guidance/index.html](http://www.mlit.go.jp/kokudokeikaku/gis/guidance/index.html)

## 1.6 略語

本製品仕様書で使用される略語は、以下のとおりとする。

- JPGIS Japan Profile for Geographic Information Standards
- JMP Japan Metadata Profile
- UML Unified Modeling Language

## 1.7 参考資料

国土数値情報で使用されるコードリスト等については、以下のサイトを参照。

国土数値情報ダウンロードサービス

URL : [http : //nftp.mlit.go.jp/ksj/](http://nftp.mlit.go.jp/ksj/)

## 2 適用範囲

---

本製品仕様書の適用範囲は次のとおりとする。

### 2.1 適用範囲識別

国土数値情報（行政区画）製品仕様書第 2.3 版適用範囲

### 2.2 階層レベル

データ集合

## 3 データ製品識別

---

### 3.1 製品仕様識別

本製品仕様書に基づくデータ製品の識別は、次のとおりとする。

- 空間データ製品の名称  
国土数値情報（行政区画）データ
- 日付  
2019年3月27日
- 問合せ先  
国土数値情報提供サイト運営事務局  
URL : <http://nlftp.mlit.go.jp/inquiry.html>
- 地理記述  
全国

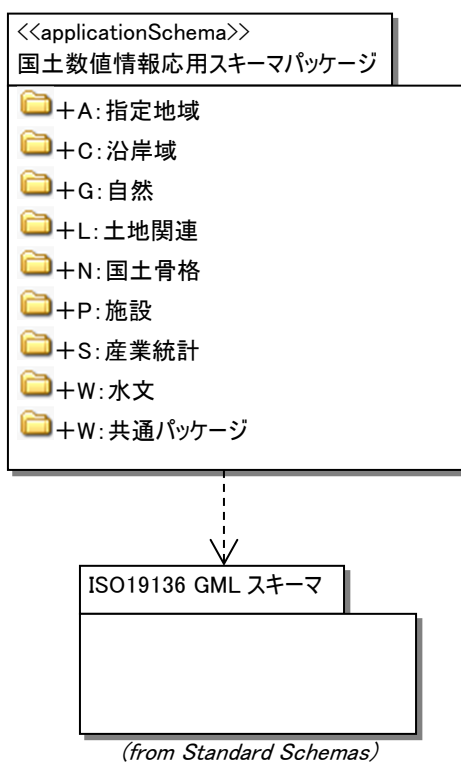
## 4 データ内容および構造

本章では、本製品仕様書が扱う国土数値情報に関する UML クラス図および定義文書を記す。

### 4.1 応用スキーマクラス図および応用スキーマ文書

#### 4.1.1 国土数値情報応用スキーマパッケージ

このパッケージは、国土数値情報応用スキーマを構成する各パッケージの依存関係を示したものである。国土数値情報応用スキーマは、国土数値情報を分類したパッケージと、国土数値情報応用スキーマで共通に使用するコードリスト等をまとめた共通パッケージより構成される。国土数値情報応用スキーマに含まれる地物およびメッシュは、指定地域や沿岸域等のカテゴリにおいて定義される。



#### 4.1.2 国土骨格パッケージ

---

このパッケージは、国土骨格に関するパッケージをまとめたものである。

<<applicationSchema>> C02: 港湾

<<applicationSchema>> C23: 海岸線

<<applicationSchema>> C28: 空港

<<applicationSchema>> N01: 道路

<<applicationSchema>> N02: 鉄道

<<applicationSchema>> N03: 行政区域

<<applicationSchema>> N04: 道路密度・道路延長メッシュ

<<applicationSchema>> N05: 旧行政区域

<<applicationSchema>> W05: 河川

<<applicationSchema>> W09: 湖沼

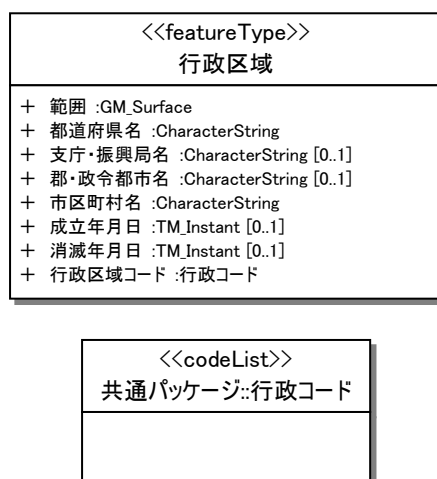


### 4.1.3 行政区域パッケージ

---

このパッケージは、行政区域に関する内容をまとめたものである。

#### 4.1.3.1 応用スキーマクラス図



#### 4.1.3.2 応用スキーマ文書

##### 行政区域

行政界及び海岸線で囲まれる行政区。

上位クラス：

---

抽象/具象区分：具象

---

属性

---

範囲：GM\_Surface

区域の範囲。

■ 定義域

行政区として定義された範囲。

都道府県名：CharacterString

当該区域を含む都道府県名称。

■ 定義域

日本国内の都道府県名称。

支庁・振興局名[0..1]：CharacterString

当該都道府県が「北海道」の場合、該当する支庁・振興局の名称。

■ 定義域

北海道の支庁・振興局の名称。

群・政令都市名[0..1]：CharacterString

当該行政区の郡又は政令市の名称。

■ 定義域

日本国内の郡・政令都市名称。

市区町村名：CharacterString

当該行政区の市区町村の名称。

■ 定義域

日本国内の市区町村名称。

成立年月日[0..1] : TM\_Instant

当該行政区が成立した年月日。

■ 定義域

明治 22 年 4 月 1 日以降。消滅年月日以前。

※この属性は大正 9 年時点のデータだけがもつ。

消滅年月日[0..1] : TM\_Instant

当該行政区が消滅した年月日。

■ 定義域

成立年月日以降。

ただし、対象期間外の場合は” 9999\_99\_99” (“\_” は半角スペース) とする。

※この属性は大正 9 年時点のデータだけがもつ。

行政区域コード : 行政区域コード

都道府県コードと市区町村コードからなる，行政区を特定するためのコード。

JIS 規格 (JIS X 0401, JIS X 0402) に準拠する。

■ 定義域

JIS 規格が定める 5 桁のコード値。

#### 4.1.4 共通パッケージ

---

このパッケージは、国土数値情報応用スキーマで共通に使用するコードリストをまとめたものである。

コードリストについては、本製品仕様書「1.7 参考資料」の参照先を参照。

### 4.2 空間スキーマプロファイル

国土数値情報の空間スキーマプロファイルは「地理情報標準プロファイル (JPGIS) 第2.1版 空間スキーマ」を採用する。

### 4.3 時間スキーマプロファイル

国土数値情報の空間スキーマプロファイルは「地理情報標準プロファイル (JPGIS) 第2.1版 時間スキーマ」を採用する。

## 5 参照系

---

### 5.1 座標参照系

参照系識別子 : JGD2011 / (B, L)

### 5.2 時間参照系

参照系識別子 : GC/JST

## 6 データ品質

品質要素	完全性・過剰
データ品質適用範囲	行政区域
データ品質評価尺度	<p>データ集合と、参照データに含まれる個々のデータ（地物インスタンス）同士の比較を行い、対応が成立した個数を数え、データ集合内に存在する過剰なデータ（エラー）の割合（誤率）を計算する。次の場合エラーとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参照データと対応関係がとれない地物インスタンスがデータ集合内に存在する場合。</li> <li>データ集合内に同一の地物インスタンスが重複して存在する場合。本体を除き、重複している余分なデータの個数をすべてエラーとして数える。</li> </ul> <p>誤率 (%) = (過剰なデータ数 / 参照データに含まれるデータの総数) × 100</p>
データ品質評価手法	<p>全数検査を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①地物型の識別ができるように、適用範囲に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。</li> <li>②データ品質評価尺度に基づき、誤率を計算する。</li> <li>③計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合否を判定する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>誤率=0% であれば“合格”</li> <li>誤率&gt;0% であれば“不合格”</li> </ul> </li> </ol>
適合品質水準	過剰なデータの割合：0%

品質要素	完全性・漏れ
データ品質適用範囲	行政区域
データ品質評価尺度	<p>データ集合と、参照データ同士の比較を行い、対応が成立した個数を数え、データ集合から漏れているデータ（エラー）の割合（誤率）を計算する。次の場合エラーとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参照データと対応すべき地物インスタンスが、データ集合内に存在しない場合。</li> </ul> <p>誤率 (%) = (漏れのデータ数 / 参照データに含まれるデータの総数) × 100</p>
データ品質評価手法	<p>全数検査を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①地物型の識別ができるように、適用範囲に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。</li> <li>②データ品質評価尺度に基づき、誤率を計算する。</li> <li>③計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合否を判定する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>誤率=0% であれば“合格”</li> <li>誤率&gt;0% であれば“不合格”</li> </ul> </li> </ol>
適合品質水準	データの漏れの割合：0%

品質要素	論理一貫性・書式一貫性
データ品質適用範囲	データ集合全体
データ品質評価尺度	データ集合の書式（フォーマット）が、整形形式となっていない箇所（XML 文書の構文として正しくない箇所）の割合（誤率）を計算する。データ集合は、整形形式の XML 文書（Well-Formed XML）でなければならない。
データ品質評価手法	全数検査を実施する。 データ集合のファイルの書式が XML の文法（構造）に適合しているか、検査プログラムによって評価する。一つ以上のエラーがあれば、“不合格”とする。
適合品質水準	XML 文書の構文のエラーの割合：0%

品質要素	論理一貫性・概念一貫性
データ品質適用範囲	データ集合全体
データ品質評価尺度	符号化仕様が規定する XML スキーマに対する、データ集合に存在する矛盾の割合（誤率）を計算する。データ集合は、妥当な XML 文書（Valid XML document）でなければならない。 XML スキーマに対する XML 文書の妥当性の検査に加え、次の項目についても検査する。 ■地物に関する検査項目 地物インスタンスの型（地物型）が、応用スキーマが規定する地物型と合致しない場合、エラーとする。 ■空間スキーマプロファイルに関する検査項目 データ集合内のどの地物インスタンスからも参照されない幾何要素が存在する場合、エラーとする。
データ品質評価手法	全数検査を実施する。 応用スキーマを表現する XML スキーマとデータ集合に矛盾がないか、検査プログラム（バリデータなど）によって検査する。一つ以上のエラーがあれば、“不合格”とする。
適合品質水準	符号化仕様の XML スキーマに対する矛盾の割合：0%

品質要素	論理一貫性・定義域一貫性
データ品質適用範囲	データ集合全体
データ品質評価尺度	地物属性インスタンスの値が、応用スキーマに規定される定義域の範囲に含まれていない場合、その個数をエラーとして数え、その割合（誤率）を計算する。 以下の場合エラーとする 誤率 (%) = (定義域外の値をもつ地物属性の数 / データ集合内の地物属性の総数) × 100
データ品質評価手法	全数検査を実施する。 属性の値が、主題属性の定義域並びに地物の空間及び時間範囲の定義域の中にあるか、検査プログラムによって検査する。一つ以上のエラーがあれば、“不合格”とする。
適合品質水準	地物属性の定義域一貫性のエラーの割合：0%

品質要素	論理一貫性・位相一貫性
データ品質適用範囲	行政区域
データ品質評価尺度	<p>XML 文書として記録されるデータ集合がもつ位相関係を含む幾何属性の一貫性を検査し、エラーの割合（誤率）を計算する。</p> <p>誤率 (%) = (位相一貫性のエラーの数 / 検査対象となるアイテムの総数) × 100</p> <p>■空間スキーマに対する検査項目</p> <p>[GM_Surface]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>複数の GM_Polygon で構成される GM_Surface において、他の GM_Polygon と GM_Curve を共有しない GM_Polygon がある場合、一つの面を構成することにならないので、これをエラーとする。</li> <li>複数の GM_Polygon で構成される GM_Surface において、patch を構成する GM_Polygon の構成点が決他の GM_Polygon の内部に存在する（面のねじれをもつ）場合、エラーとする。</li> </ul> <p>[GM_Polygon]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>GM_Polygon を構成する座標がすべて同一平面上に存在しない場合、エラーとする。</li> </ul> <p>[GM_SurfaceBoundary]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>interior 要素を構成する GM_Ring が、exterior 要素を構成する GM_Ring と交差する場合、エラーとする。</li> <li>interior 要素を構成する GM_Ring 同士が互いに交差する場合、エラーとする。</li> <li>exterior 要素を構成する GM_Ring 同士が互いに交差する場合、エラーとする。</li> <li>interior 要素を構成する GM_Ring が、同じ GM_SurfaceBoundary の interior 要素の GM_Ring に包含される場合、エラーとする。</li> </ul> <p>[GM_Ring]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>GM_Ring の始点及び終点以外で自己交差又は自己接触する点をもつ場合、エラーとする。</li> </ul> <p>[GM_Curve]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>segment を構成する各線分の終点が次の始点と一致しない場合、これをエラーとする。但し、最後の線分は除く。</li> <li>GM_Curve の始点及び終点以外で自己交差又は自己接触する点をもつ場合、エラーとする。</li> </ul> <p>[GM_LineString]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2 点又は 3 点の controlPoint で構成される GM_LineString の始点と終点が決他の GM_Point を参照する場合、エラーとする。</li> <li>GM_LineString が自己交差若しくは始点及び終点以外で自己接触する点をもつ場合、エラーとする。</li> </ul>
データ品質評価手法	<p>全数検査を実施する。</p> <p>位置の関係の一貫性が保たれているか、検査プログラムによって検査する。一つ以上のエラーがあれば、“不合格”とする。</p> <p>ただし、元の原典資料「数値地図（国土基本情報）行政区画」によるエラーの場合は検査対象外とする。</p>
適合品質水準	位相一貫性のエラーの割合：0%

品質要素	位置正確度・絶対正確度
データ品質適用範囲	行政区域
データ品質評価尺度	データ集合内の地物の境界線と原典情報「数値地図（国土基本情報）行政区画」の境界線を相対的に比較したときに、許容範囲（1/25,000 地図上で 1.0mm 相当の距離）を超える場合、その個数をエラーとして数え、その割合（誤率）を計算する。 誤率 (%) = (異なる座標値をもつ地物の数 / データ集合内の地物の総数) × 100
データ品質評価手法	全数検査を実施する。 地物の境界線と原典資料の境界線が一致するか、検査プログラムによって検査する。一つ以上のエラーがあれば、“不合格”とする。 ただし、元の原典資料によるエラーの場合は検査対象外とする。
適合品質水準	位置正確度のエラーの割合：0%

品質要素	主題正確度・分類の正しさ
データ品質適用範囲	データ集合全体
データ品質評価尺度	データ集合と判読原図の一対一の比較を行い、データ集合内に存在する誤った地物属性インスタンス（エラー）の割合（誤率）を計算する。 誤率 (%) = (地物属性のエラー数 / 検査した地物属性の総数) × 100
データ品質評価手法	全数検査を実施する。 ①地物属性インスタンスが識別できるように、適用範囲に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。 ②データ品質評価尺度に基づき、誤率を計算する。 ③計算した誤率と適合品質水準を比較し、以下の判定式に基づき合否を判定する。 “適合品質水準 ≥ 誤率”であれば“合格” “適合品質水準 < 誤率”であれば“不合格”
適合品質水準	分類のエラーの割合：0%

品質要素	主題正確度・非定量的主題属性の正しさ
データ品質適用範囲	行政区域
データ品質評価尺度	データ集合と、参照データに含まれる個々のデータ（地物インスタンス）同士の一対一の比較を行い、データ集合内に存在する誤った地物属性インスタンス（エラー）の割合（誤率）を計算する。次の場合、エラーとする。 ・地物属性“都道府県名、支庁名、郡・政令市名、市区町村名”の値の綴りが正しくない場合。但し、当用漢字外の文字は、監督員が認める場合、代替可とする。 誤率 (%) = (地物属性のエラー数 / 検査した地物属性の総数) × 100
データ品質評価手法	全数検査を実施する。 ①地物属性“都道府県名、支庁名、郡・政令市名、市区町村名”の値が識別できるように、適用範囲に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。 ②データ品質評価尺度に基づき、誤率を計算する。 ③計算した誤率と適合品質水準を比較し、以下の判定式に基づき合否を判定する。 “適合品質水準 ≥ 誤率”であれば“合格” “適合品質水準 < 誤率”であれば“不合格”
適合品質水準	非定量的な主題属性のエラーの割合：0%



## 7 データ製品配布

### 7.1 配布書式情報

#### ■ 書式名称

JPGIS 第 2.1 版 附属書 12 (規定) 地理マーク付け言語 (GML)

#### ■ 符号化仕様

国土数値情報応用スキーマの XML Schema は、JPGIS 第 2.1 版 附属書 12 の符号化規則に従う。また、国土数値情報応用スキーマが参照する基本データ型スキーマ、空間スキーマ、時間スキーマ等の標準スキーマの XML Schema は、次の URL に掲載されている XML Schema を使用する。

[http://standards.iso.org/ittf/PubliclyAvailableStandards/ISO\\_19136\\_Schemas/](http://standards.iso.org/ittf/PubliclyAvailableStandards/ISO_19136_Schemas/)

国土数値情報 (行政区域) 応用スキーマの XML Schema で使用する名前空間および名前空間接頭辞は次のとおりとし、XMLSchema については付属資料を参照のこと。

名前空間 : <http://nlftp.mlit.go.jp/ksj/jpgis/xsd/KsjAppSchema.xsd>

名前空間接頭辞 : ksj

#### ■ 文字集合

UTF-8

#### ■ 言語

日本語を使用する。

### 7.2 配布媒体情報

#### ■ 単位

都道府県

#### ■ 媒体名

下記サイトよりダウンロード。下記サイトでは、国土数値情報を無償で一般公開している。

国土数値情報ダウンロードサービス (JPGIS 準拠データ)

URL : <http://nlftp.mlit.go.jp/ksj/>

## 8 メタデータ

---

本製品仕様書のメタデータは、**JMP2.0**を採用する。

国土数值情報（行政区域）製品仕様書 第 2.3 版

---

付属資料

付属資料-1 符号化仕様作成のためのタグ一覧

	クラス	属性・関連役割	型	タグ名	英語名(属性・関連役割のみ)
国土骨格					
	N03 行政区域				
	行政区域			AdministrativeBoundary	administrative boundary
		範囲	GM_Surface	bounds	bounds
		都道府県名	CharacterString	prefectureName	prefecture name
		支庁・振興局名[0..1]	CharacterString	subPrefectureName	sub prefecture name
		郡・政令都市名[0..1]	CharacterString	countyName	county name
		市区町村名	CharacterString	cityName	city name
		成立年月日[0..1]	TM_Instant	formationDate	formation date
		消滅年月日[0..1]	TM_Instant	disappearanceDate	disappearance date
		行政区域コード	行政コード	administrativeAreaCode	administrative area code

## 付属資料-2 符号化仕様

---

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<xsd:schema xmlns:ksj="http://nlftp.mlit.go.jp/ksj/schemas/ksj-app"
xmlns:gml="http://www.opengis.net/gml/3.2" xmlns:sch="http://www.ascc.net/xml/schematron"
xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
targetNamespace="http://nlftp.mlit.go.jp/ksj/schemas/ksj-app" elementFormDefault="qualified"
version="2.1">
  <!-- 外部参照 -->
  <xsd:import namespace="http://www.opengis.net/gml/3.2"
schemaLocation="http://standards.iso.org/ittf/PubliclyAvailableStandards/ISO_19136_Schemas/gml.x
sd"/>
  <xsd:include schemaLocation="Ksj_Common.xsd"/>
  <!-- 基底要素 -->
  <xsd:element name="Dataset">
    <xsd:complexType>
      <xsd:complexContent>
        <xsd:extension base="gml:AbstractFeatureType">
          <xsd:choice minOccurs="0" maxOccurs="unbounded">
            <xsd:element ref="gml:AbstractGML"/>
            <xsd:element ref="gml:CompositeValue"/>
          </xsd:choice>
        </xsd:extension>
      </xsd:complexContent>
    </xsd:complexType>
  </xsd:element>
  <!-- 要素定義 -->
  <xsd:element name="AdministrativeBoundary" type="ksj:AdministrativeBoundaryType"
substitutionGroup="gml:AbstractFeature"/>
  <xsd:complexType name="AdministrativeBoundaryType">
    <xsd:annotation>
      <xsd:documentation>行政区域</xsd:documentation>
    </xsd:annotation>
    <xsd:complexContent>
      <xsd:extension base="gml:AbstractFeatureType">
        <xsd:sequence>
          <xsd:element name="bounds" type="gml:SurfacePropertyType">
```

```

<xsd:annotation>
  <xsd:documentation>範圍</xsd:documentation>
</xsd:annotation>
</xsd:element>
<xsd:element name="prefectureName" type="xsd:string">
  <xsd:annotation>
    <xsd:documentation>都道府県名</xsd:documentation>
  </xsd:annotation>
</xsd:element>
<xsd:element name="subPrefectureName" type="xsd:string" minOccurs="0">
  <xsd:annotation>
    <xsd:documentation>支庁・振興局名</xsd:documentation>
  </xsd:annotation>
</xsd:element>
<xsd:element name="countyName" type="xsd:string" minOccurs="0">
  <xsd:annotation>
    <xsd:documentation>郡・政令都市名</xsd:documentation>
  </xsd:annotation>
</xsd:element>
<xsd:element name="cityName" type="xsd:string">
  <xsd:annotation>
    <xsd:documentation>市区町村名</xsd:documentation>
  </xsd:annotation>
</xsd:element>
<xsd:element name="formationDate" type="gml:TimeInstantPropertyType" minOccurs="0">
  <xsd:annotation>
    <xsd:documentation>成立年月日</xsd:documentation>
  </xsd:annotation>
</xsd:element>
<xsd:element name="disappearanceDate" type="gml:TimeInstantPropertyType" minOccurs="0">
  <xsd:annotation>
    <xsd:documentation>消滅年月日</xsd:documentation>
  </xsd:annotation>
</xsd:element>
<xsd:element name="administrativeAreaCode" type="gml:CodeType">
  <xsd:annotation>

```

```

<xsd:documentation>行政区域コード</xsd:documentation>
  <xsd:appinfo>
    <gml:defaultCodeSpace>AdministrativeAreaCode.xml</gml:defaultCodeSpace>
  </xsd:appinfo>
</xsd:annotation>
</xsd:element>
</xsd:sequence>
</xsd:extension>
</xsd:complexContent>
</xsd:complexType>
<xsd:complexType name="AdministrativeBoundaryPropertyType">
  <xsd:sequence minOccurs="0">
    <xsd:element ref="ksj:AdministrativeBoundary"/>
  </xsd:sequence>
  <xsd:attributeGroup ref="gml:AssociationAttributeGroup"/>
  <xsd:attributeGroup ref="gml:OwnershipAttributeGroup"/>
</xsd:complexType>
<xsd:complexType name="AdministrativeBoundaryMemberType">
  <xsd:complexContent>
    <xsd:extension base="gml:AbstractMemberType">
      <xsd:sequence minOccurs="0">
        <xsd:element ref="ksj:AdministrativeBoundary"/>
      </xsd:sequence>
      <xsd:attributeGroup ref="gml:AssociationAttributeGroup"/>
    </xsd:extension>
  </xsd:complexContent>
</xsd:complexType>
</xsd:schema>

```